



ショートコメント

★★★

Data 2022-122

アフター・ヤン

2021年／アメリカ映画
配給：キノフィルムズ／96分

2022（令和4）年11月5日鑑賞

TOHO シネマズ西宮 OS

監督・脚本：コゴナダ

出演：コリン・ファレル／ジ
ョディ・ターナー＝ス
ミス／ジャスティ
ン・H・ミン／マレア・
エマ・チャンドラウィ
ジャヤ／ヘイリー・ル
ー・リチャードソン

👁️👁️ みどころ

AI ロボットが身近になってきた今、美人女優アリシア・ヴィキャンデルが主演した『エクス・マキナ』（15年）は面白かったから、本作も必見！下馬評は高いし、「テクノ」と呼ばれる人型ロボットであるヤンが、人種の異なる3人家族と共に暮らす近未来の姿は興味深い。

ところが、ヤンの故障から始まる本作のストーリー展開はイマイチ。ロボットに感情はあるのか？とりわけ恋の感情は？なるほど、それは興味深いテーマだが、そこから「人間とは何か？」を問かけるとするのは、あまりに難解！あまりに哲学的！そこまで身構えなくてもよかったのでは？

—— * —— * —— * —— * —— * —— * —— * —— * —— * ——

◆手塚治が描いた「鉄腕アトム」に代表されるロボットの世界は、今や人間の日常生活に定着。人間にしかできない職人技だったはずの握り寿司さえ、今やロボットが人間以上の質とスピードで処理している。ソニーから発売された「aibo（アイボ）」の人気は高かったが、本作冒頭に登場する「テクノ」と呼ばれる人型ロボットが一般家庭に普及する近未来はすぐそこに。

まずは、本作冒頭、茶葉の販売店を営む白人のジェイク（コリン・ファレル）、アフリカ系の妻のカイラ（ジョディ・ターナー＝スミス）、中国系養女のカミ（マレア・エマ・チャンドラウィジャヤ）、そして、カミが「哥哥」（ガガガ）と慕うベビーシッター・ロボットのヤン（ジャスティン・H・ミン）たちに注目。

日本は単一民族国家だが、アメリカは多民族国家。白人と黒人が混在している上、ヒスパニック系や中国系等々、人種のるつぼだ。しかして、コゴナダ監督が描く近未来の家族は、人種の混在だけでなく、人型ロボットも混在！

◆Wikipedia で本作の評価を調べてみると、「本作は批評家から絶賛されている。批評家の見解の要約は、『表現したいものが思うように表現できていないと思わせる箇所が時折ある。

しかし、ゆったりとしたストーリーに進んで身を任せるのであれば、『アフター・ヤン』は豊饒なものを提供してくれる作品である』となっている。」それなら、なおさら、こりゃ必見！

私の大好きな美人女優アリシア・ヴィキャンデルがAI（人工知能）ロボット演じた『エクス・マキナ』（15年）（『シネマ38』189頁）はめちゃ面白かったから、本作にも期待！冒頭に見る4人家族（？）の人種の多様性にもびっくりさせられながら、こりゃ興味津々・・・。

◆『エクス・マキナ』では、別の美女AIロボットも登場し、性的なテーマが少しずつ大きくなっていった。そして、恋愛の駆け引きでもアリシア・ヴィキャンデル扮するAIロボットエヴァの優秀さが確認され、AIロボットの反乱（？）に繋がっていったから、そのストーリーは波瀾万丈で面白かった。

それに対して、本作のストーリーは、ある日、ヤンが故障して動かなくなってしまうところからスタートする。ミカの要請もあって、ジェイクはその修理に奔走したが、そこで発見したのが、ヤンの体内に1日に数秒間ずつ動画を撮影できる特殊なパーツが組み込まれていること。そして、そのメモリーバンクに保存された映像にはジェイクたちや素性不明の若い女性の姿も・・・。こりゃ、一体ナニ？そこから深淵かつ難解なテーマが次々と・・・。

◆絶賛されている本作については、新聞紙評でもさまざまな批評（解説？）がされている。その中に「ロボットの記録を通じ、人間とは何かという実存的な問いを。」というクソ難しい問題提起もある。どうやら本作の究極の問題提起は、「ロボットは人間の感情を持つのかどうか？」ということらしいが、何もそんなクソ難しいこと、言わなくてもいいのでは？

◆本作のチラシには「まるで小津安二郎監督がアメリカのSF映画を作ったかのような味わい」「静謐で華麗」の文字が躍っている。たしかに、本作のそんな一面は秀逸。4人家族のあり方も興味深いいし、映像技術の素晴らしさも群を抜いている。

しかし、そうだからこそ、「人間とは何かを問いかける」という、あまりに哲学的でクソ難しい問題に固執しなくてもよかったのでは・・・。

2022（令和4）年11月8日記